

Project

地域プロジェクト（令和3年度前期～令和3年度後期）

17

地域協働専攻
地域政策グループ

「財政教育プログラム」

刷新協働プロジェクト with 函館財務事務所

【メンバー】[学 生] 遠藤 優亮/工藤 魁八/杉谷 友哉
[担当教員] 奥平 理

【背景】

財務省函館財務事務所から、これまで取り組んできた「財政教育プログラム」をより効果的で、よりよい授業とするための教材や授業の進め方、グループワークの方法などを検討するため、協働できないかとの依頼があり、このプロジェクトがスタートした。

【目的】

若年層に日本の財政に興味を持ってもらい、日本の将来について考えてもらう。

【概要】

学生は文献調査等を含む協働作業によって、函館財務事務所の「財政教育プログラム」の問題点を洗い出すことからはじめた。そして、函館財務事務所の協力のもと、学生をグループ分けして、グループワークを行い、相互に討論することを通して「財政教育プログラム」の問題点を特定するとともに、それを解決するための具体的な内容を構想した。本プロジェクトは函館財務事務所や附属函館中学校、市内の小中学校など、地域の人々と連携しながら1年間をかけて進められた。

【プロセスと成果】

前期では、まず前回の「財政教育プログラム」の模擬授業を受け、分析・解析を行い、問題点を抽出した。その後、アイデアを出し合い、問題改善に向けた授業づくりを行った。また、新たに作った授業の整理と改善に向けてのワークショップを行い、中間発表会に向けての総括と反省・課題の洗い出し作業を行った。

後期では、まず附属函館中学校でのグループワーク用議題（模擬選挙）を設定し、模擬選挙用に架空の政党を作成した。また、グループワークに合わせた内容を授業部分に追加し、前期の反省を踏まえて全体を修正した。最終的に附属函館中学校で授業を行い、実施内容の振り返りと反省を行った。そして、成果発表会に向けての総括と反省・課題の洗い出し作業を行った。



【議論の様子】



【附属函館中学校での授業の様子】

【総括と反省・今後の課題】

前期では、前半の授業でのスライドや、どのように授業を行っていくかなどの大まかな枠は決定したが、細かい部分（話す内容やデザイン）の詰めが甘いこと、グループワークに向けた作業がまだ足りないことが分かり、後期に向けて、授業内容の詰めや、グループワークに向けた授業構成要素を考えること、他資料の作成が課題として残った。

後期では、授業後半部分のグループワークにおいて、生徒の間で活発な討論が行われ、「選挙の大切さを学ぶ」というグループワークの目的が達成されたと思われる。しかし、授業前半部分では、伝える側の技術が未熟だったため、生徒に伝えなかったことを十分に伝えることができなかった。今後の課題として、授業を行う側の技術の向上や、一貫した目的を持ったグループワークに意識を集中できる授業構成が考えられる。

【地域からの評価】

「財政教育プログラム」の実践後、附属函館中学校の生徒から、

「日本の歳出と歳入をみて、これから自分たちがどうすべきか考えることができた」

「3つの党の発表から、それぞれの党の政策一つ一つにメリット・デメリットがあり、メリットだけでなくデメリットも見たときにどの党がいいのかを考えるべきであると感じた。」

等の感想をいただき、多くの生徒にとってこの「財政教育プログラム」が「財政」を考えるきっかけになることができていると思った。

また、函館財務事務所からは

「大学と協働することで、当局にはない知見を活かした授業を作り出すことができた。

実施校でも好評をいただき、非常によい取り組みとなった。」

とのコメントをいただいた。

【その他】

年間スケジュール

<前期>

第1~2回	「財政教育プログラム」模擬授業
第3~4回	財政に関する基礎知識
第5回	グルーピング決定とグループワークについて
第6~11回	「財政教育プログラム」の分析と解析、問題点の抽出
第12回	問題点の整理と改善に向けてのワークショップ
第13~14回	中間発表会準備
第15回	中間発表会実施

<後期>

第1回	前期の振り返り 後期に行うことの整理
第2~6回	附属函館中学校でのグループワーク用資料作成
第7回	「財政教育プログラム」リハーサル
第8回	附属函館中学校での「財政教育プログラム」実践
第9回	「財政教育プログラム」実践の振り返り
第10~12回	駒場小学校での「財政教育プログラム」グループワーク用資料作成
第13~14回	プロジェクト成果発表会準備
第15回	プロジェクト成果発表会実施